

優 秀 賞 (事務次官賞)  
作文の部 小学生

『土砂災害で思うこと』

防府市立右田小学校  
4年生 光田 圭佑

ぼくの地区が2009年に大雨で土砂くずれのひ害にあいました。朝起きると、すごくはげしい雨がふっていて川の水位も畑にたまった水の量もおそろしいほどふえていて、山の砂防ダムからも水があふれていたの、びっくりしました。

その年はぼくのおじいちゃんが自治会長だったので朝早くから家に電話がたくさんかかってきて、いろいろな人の家に手助けに行っていて家にはいませんでした。

そして、この日はぼくの弟のたん生日で、まさかそんなことになるとはだれも思っていなかったです。

山の方に何か見えたので、あれはなんだろうと思ってよく見てみると、土砂くずれが起こっていました。その時ぼくは知らなかったけど、本当はその土砂くずれで家がうまった人や、家がこわれてひなした人やさらに、何人もの方が、なくなられ、たくさんのはんいで、とても大変なことが起こっていたのを初めてニュースで聞いてとてもおどろきました。そんなにたいへんなことになっていたとは思っていませんでした。

その後きゅう急車などが来ていろいろな人を助けてあげていました。ぼくは、びっくりしました。

その後でひなんかん告が出てぼくの家は運よくひ害にあっていないけど一応ひなんしました。

ひなんじょでは、おべん当などが配給されたりしました。ぼくは2～3日で家に帰れたけど、ぼくのおじいちゃんは10～15日くらい右田中の体育館でいろいろ地区の人の世話をしたり、声をかけたりはげましたりしていたので感心しました。

それからさいがいふっきのために百人くらいのボランティアやおべん当屋さんからは、たくさんのおべん当を毎日朝、昼、夜ととどけてもらいました。ぼくもひ害を受けた方に少しでも役立てないのかと思って市の人が持ってきてくれたお茶と、おべん当屋さんが持ってきてくれたパンとおべん当を田ノ口会館まで取りにこられた人の一人一人におべん当をくばったりしました。そうしたら、地区のみなさんにとってもよろこばれ、毎日おべん当をくばるのを手伝ってくださる人も出てきて、少しだけ役に立てたのかな？と思いました。

ぼくが考えた土砂災害防止対策は、てっぽう水などが出そうな場所に近付かないこと。

例えばそのちかくで遊んでいて、急に雨がふってきて、そこから少し水が出てきたからといってその水をさわったりしてしまうと、急に上の方でたまっていた水が流れ出てくることがあるので、その水にまきこまれたら遠くまで流されるか、水におぼれて分からなくなるか、まきこまれたら大変きけんです。その近くで遊んだりしないのも土砂災害にまきこまれない一つと思います。

きけんな場所をハザードマップであらかじめ調べておくとよいと思います。

木などを山に植えたり山の管理をしたりすると、地ぼんが強くなり雨などもすいとってくれると、大きな石などもこなくなって災害が起こりにくくなるなどいろいろな事があるそうです。

土砂災害は人の命までもうぼう大変な事だから災害が起きないように山を大切に、起きたときはなるべく早くひなんすればひ害を受ける人が出なくなると思います。

それと今まだひなん生活をつづけている東日本大しんさいの復興をねがっています。

ぼくはひ害を受けていないのだから、何かできることがあれば少しでも役に立ちたいです。